

共生・公正・創造



# ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合  
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号  
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290  
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治



## “テロリストに乗っ取られた”JR東日本の真実”

### 「マングローブ」ダイジェスト版 第3回

あの「週刊現代」連載記事が【マングローブ】という本になった。本紙は筆者（西岡研介氏）の了解を得て、『謎に包まれた非合法集団とJR東日本の抜き差しならぬ関係』をダイジェスト版として紹介することとした。

## 「妖怪」のプロフィール

松崎明は1936年、埼玉県東松山市に生まれた。県立川越工業高校卒業後の55年、19歳で旧国鉄に就職し、松戸電車区で整備掛として働き始める。そのころすでに社会主義思想に傾倒していたが、国鉄に就職すると同時に、日本共産党に入党。その後、動労に加入した松崎は、生まれ持ったカリスマ性と、類稀なる人心掌握能力で頭角を現す。25歳のころには若手機関士らを組織し、動労全国青年部を結成。その初代部長に就任した。

「動労は右派の『労運研（労働運動研究会）』と、左派の『政研（政策研究会）』という二大派閥に分かれていました。両派はともに、松崎が動労青年部を作った61年に結成されたのですが、結成当時は、右派の『労運研』が大勢を占めていた。しかし、『政研』の有力メンバーでもあった松崎が、青年部で力をつけるのに伴い、松崎を慕う若手運転士が続々と政研に流れた。そして世代交代が進むにつれ、労運研と政研の勢力が逆転。松崎を中心として、過激な闘争方針を打ち出す政研がヘゲモニーを握るに至って、動労は『鬼の動労』と恐れられる組織になっていくのです（旧国鉄関係者）...「鬼」の松崎はその後（反マル生闘争やスト権スト等を経過して）、動労内でヘゲモニーを握り続け、85年には動労トップである中央執行委員長に就任する。

松崎にはもう一つの顔がある。「革マル派最高幹部」としてのそれだ。黒田を「革命運動における師」と仰いでいた松崎は59年、黒田と共に共産党を離れ、革共同が63年に革マル派と中核派に分裂した際も、黒田と行動を共にし、革マル派を創設した。その後、革マル派は中核派と血で血を洗う内ゲバを繰り返すのだが、松崎も黒田と並んで中核派から名指しで「処刑宣言」を受けることになる。ところが松崎は、JR東日本発足前後から突如として、積極的にマスコミに露出し、革マル派との関係を否定しはじめるのである。

<私が一時期、（革マル派）幹部をしていたのは事実ですよ。転向したのはいつかと聞かれると困るけれど、10年くらい前かな。社会が変われば思想的変遷もある。動労の中にはいまでも革マル派の人はいるよ。でもやり方についてこれないやつは除名にする。いまのところそういった連中はいないけどね>（『週刊朝日』86年8月8日号）

しかし、この松崎の「転向宣言」は、それから10年後の96年、警視庁公安部による綾瀬アジト摘発の結果、すべて「嘘」だったことが分かる。

「綾瀬アジトからの押収物を分析した結果、松崎が現在も組織内では、『黒田に次ぐ最高幹部として絶大な権限を有しているほか、革マル派を指揮・指導し、党建設に精力的に取り組んでいること』が判明したのです（公安当局者）

【マングローブ（講談社）P.40～P.43】